

◆ガラスの竜

ジョウト地方のヒワダタウンから、海を南に渡った場所には、海の上の干潟に建てられた『水の都』という別名を持った、アルトマーレと呼ばれる街があります。

この街は、ジョウトと貿易を行う西欧の人々との中継役として住み着いた外国人たちの居住区であり、彼らの言葉で『遙かなる海』を意味しております。時の幕府からは『巫留徒稀』などと字を当てられ記録されています。

水の都という別名の通り、この街は迷路のように入り組んだ運河や水路が発達し、水と共生する美しい景観が特徴の観光都市です。

西欧における中世初期のころから、ジョウト地方との間で貿易の要となったこの街では、独自の産業としてガラス工芸が発達し、今現在でもガラス工芸品の地域ブランドとして世界に通用するクオリティを誇っています。

このガラス工芸の起源は古く、そして謎に包まれています。一説には中世半ばにおける交易品の中でも特に珍重され、価値の高いガラス工芸品を島内でも生産出来れば多大な利益を得られるからと始まったという説がある一方で、中世初期の頃にはガラス工房やガラスの跡があったりなど、起源は定かではないというのが実情です。

海の上に建てられた街ですので、原材料やガ

ラスを溶かすための燃料を自力で産出できないため、職人が原材料な豊富な地方へと移住しないようにと、職人や役人たちの間で強力な保護政策がとられました。

すべての工房を本島に集め、職人、家族、販売者を一ヶ所に集める。功績をあげたり売り上げの目覚ましい工房には報酬を与え、逆に技術の流出を防ぐために、島から逃亡しようとする職人には罰を与えるなどの法令が、それに挙げられます。

こうして職人を囲った甲斐もあり、このアルトマーレでは沢山の工房がせめぎ合い切磋琢磨していたために、技術は成長を続け様々な名品が生まれるに至ったわけです。

「観光客に人気なのは、ラティオスとラティアスをあしらった商品ですね。装飾品なり、食器なり、形や用途は違っても、ポケモンモチーフになるとこれが一番です」

100年以上続く工房の主人であるサレさんは、そう語ります。

アルトマーレには、ラティオスとラティアス、二種の護神として伝わる竜が存在します。この竜達が外敵や災害、幕府からの理不尽な干渉を跳ね除けてこなければ、今頃アルトマーレという街は存在していなかったといわれています。

西欧からの移住者達はアルトマーレへの移住当初、時の幕府より過剰な搾取を受けておりました。搾取を嫌った住人達が自治権を主張する

と、統治を任されていた権力者は当然良い顔をしません。

しかし幕府が武力による交渉を行おうとすれば、竜達の方で船団を飲み込むように海は荒れ、時には星が降ってアルトマーレを守ったのだとか。そして、竜達が死に際に残す心の雫と呼ばれる珠は、島を一瞬にして要塞化させるほどに強大な力を有していました。

それほど強大な力を持った存在ゆえ、その竜達を模したものや、心の雫を模した装飾品は、魔除けや厄除けとしても扱われているのです。

赤い下半身と白の上半身を持った竜がラティアス。青い下半身と、白い上半身を持った竜がラティオス。

売れ筋は同じ一つの製品にその二匹が描かれているものや、それぞれの竜が描かれたペアグラス等のセット商品で、恋人や夫婦に人気があるそうです。

門外不出の高い造形技術と美しい色合いで、見る者を魅了してくれるアルトマーレのガラス工芸品。アルトマーレを訪れた際は、是非お土産に一セット購入してみたいかがでしょうか？